

令和6年度第1回県南東医療提供圏域調整会議 会議録

1 日 時 令和7年3月5日（水） 18:30～20:00

2 場 所 WEB開催

3 出席者 別添出席者名簿のとおり

4 議事等

（1）定足数の確認

事務局司会は、県南東医療提供圏域調整会議委員28名全員（うち代理出席4名）の出席があり、医療提供圏域調整会議設置要綱（以下「要綱」という。）第7条第2項の規定に基づく定足数を満たしていることを報告した。

（2）会長及び副会長の選任等

要綱第5条第1項の規定に基づき、会長に塚田委員、副会長に坪委員及び眞壁委員を選任することが承認された。また、会議の議長は、要綱第7条第1項の規定に基づき、会長である塚田委員が務めた。

（3）会議録署名人の指名

議長は、要綱第10条第1項の規定に基づく会議録署名人に、高須委員及び海老原委員を指名した。

（4）議事

① 医療提供圏域調整会議について

医療政策課より、資料1に基づき、医療提供圏域調整会議の設置目的や今後の方針等について説明した。

<主な質疑応答・意見など>

■医療提供の広域化は良い面と悪い面があり、分野によっては広域化が難しい。具体的には、当構想区域では、高度医療については区域内の設置が難しい、病床数や人材の確保が難しい。小児救急は広域化することで功を奏している。分野によって扱いが異なると考える。
（眞壁委員）

■作業部会における医療機能の集約化や医療機関間の役割分担に係る問題点の抽出結果は、来年度に示されるのか。（鈴木祥司委員）

→本年4～5月の医療審議会計画部会で各作業部会における検討状況を取りまとめた後、各医療提供圏域調整会議における情報共有や具体的な協議を行う予定。（医療政策課）

② 県南東医療提供圏域の概況及び医療提供体制について

事務局より、資料2に基づき、県南東医療提供圏域の人口動態、将来の医療・介護需要予測、医療自足率、主な疾病・事業において拠点となる医療機関の配置状況等について説明した。また、資料3に基づき、県南東医療提供圏域内の入院医療提供状況、5疾病・6事業に係る医療圏間の患者流出入状況、救急医療に係る休日・夜間・時間外の受診患者数や医療機関別の搬送

人員等について説明した。

＜主な質疑応答・意見など＞

■資料2 p 11の表「救急搬送件数（2023年）」から守谷市が除かれているのはなぜか。
（遠藤委員）

→当該表の元データ（医療機関別患者搬送人員調べ）では、消防本部別に搬送件数を集計している。守谷市は、取手・竜ヶ崎医療圏以外の市町村（常総市、つくば市）と同じ消防本部（常総広域消防）に属しており、守谷市民の搬送先のみ抽出することが難しいことから除外した。来年度以降、レセプトデータ等を使用することによってある程度守谷市の現状を明らかにすることが可能かもしれないが、技術上その他の問題により、条件によっては難しい。（事務局）

■資料3で引用した国保レセプト抽出データについて、成人の場合の男女比はどのようになっているか。成人に関しては、セレクションバイアスがかかっているか気になった。（緒方委員）

→今回の集計データの中に性別比が入っていないため男女比を把握できない。セレクションバイアスに関しては、65歳以上の場合は悉皆性が高いと考えて良いと思うが、65歳未満の医療提供体制を議論する際には相当に注意が必要と考える。（事務局）

■鹿行地域は、周囲を病院に囲まれている他の医療圏と異なり、周囲が海や県外に接し南北に長く、かつ、鹿嶋・神栖に比較的病院が集中しているという特殊な環境にあると感じた。
（小山委員）

■当院は二次医療圏の端に所在し、つくば等に近く、患者層もつくばみらいや水海道からが多く、土浦よりもつくばへ運ぶ方が多い。（遠藤委員）

■当院は鹿行地域（行方）からかなりの患者を受けているが、逆に鹿行地区に流れることはなく、水戸に流れていく。必ずしも県南東医療提供圏域の枠組みと一致しない。（幕内委員）
→患者の流出入に関しては、医療機関の所在地や人口分布等によって、医療圏や医療提供圏域の枠組みと診療の実態とが一致しないのが現状。そのため、場所ごとに個別に考えていく必要がある。（事務局）

■取手・竜ヶ崎医療圏は周囲の医療圏に助けてもらっている。うまく患者が回っているか、これから分析していただき、回っていかないようであれば当医療提供圏域で検討していく必要がある。（富満委員）

■問題になるのは外傷患者や心血管疾患のうち手術が必要な患者。県南東医療提供圏域である程度集約化しなければならないものの数が分かったと見え方が変わらと思う。（柳田委員）

■当院は千葉に近いが（千葉への患者は）それほど人数は多くなく、高度な医療はつくば、土浦に依存している実感がある。（海老原委員）

■資料を見ると、疾患によって、二次医療圏で対応できるものと広域で対応が必要なものが分かった。（瀬下委員）

■資料は、今の地域の状況を把握するのに役立つと感じた。（金子委員）

■他の医療提供圏域との比較が分かったと課題等を絞っていきやすいと思う。（鈴木武樹委員）

③ 県南東医療提供圏域の区域対応方針について

事務局より、資料4に基づき、県南東医療提供圏域の区域対応方針案について説明した。

<主な質疑応答・意見など>

■地域医療構想における2025年の必要病床数と現状値との過不足について、特に不足している病床を増やそうとする場合に、果たして色々な病院の先生が動けるのか。県はこの過不足をどのように解決するつもりなのか。(広岡委員)

→2025年の必要病床数は、目標値として絶対に近づけなければならない基準としては必ずしも考えておらず、地域医療構想策定当時の推計値として扱っている。(医療政策課)

■人口動態から計算された将来の医療需要に合わせていくことは避けられない。病床数を調整するとなると、人的・経済的な施策がないと目指すべき方向性には向けないのではないか。(広岡委員)

■三次救急、高度急性期の現状について、当院では受け入れられるだけ受けるという方針のもと、この年末年始もほぼ100%稼働した。しかしながら、キャパシティ以上の救急要請があり断らざるを得なかった。断った患者がどこへ搬送されたのか(医療圏外なのか、県外なのか等)、数字を知りたい。(広岡委員)

→この年末年始は、消防本部も非常に救急がひっ迫した。土浦協同病院で断った患者は、古河や県外などに搬送した。搬送先に関するデータは消防本部で持っている。(檜山委員)

■今後重要なのは、重症患者を診察できる医師の数。今後増えてくれるのか。これを加味して病院間でうまく患者のやり取りを行わないと厳しいのではないか。(柳田委員)

■この年末年始は、当院はキャパシティの限界近くまで患者を診ていた。ただし、これまでほとんど変わらない患者数を診ているので、当院がやれる能力はこれぐらいなのかと思っている。県も救急車の適正利用の促進を真剣にやるべきではないかと思う。(富満委員)

■県南東医療提供圏域は、国の推進区域に位置付けられているが、具体的にやらなければならないことなどはあるのか。(塚田会長)

→今後国が計画している区域対応方針に係る進捗状況調査等へ回答する見込み。(事務局)

5 その他

会議全体を総括して、鹿行、取手・竜ヶ崎の各地域医療構想調整会議会長より、以下のコメントがあった。

■本日の会議を通じて、鹿行の現状が大変な状況であることを再認識した。鹿行地区が千葉、土浦、水戸地区への依存度が高いという特殊な状況を踏まえ改めて対応策等を検討していきたい。5疾病・6事業の高度医療に関する各病院の専門医や医療機器などが共有できるデータベースがあると互いに融通しやすくなるのではないか。また、各病院とも経済的に厳しい現状を考えると経営の視点からも見ていく必要があると感じた。(坪委員)

■県南東医療提供圏域は国の推進区域に位置付けられており、他の医療提供圏域と比べて進捗状況が注目されているところもあるので、さらなる情報共有や、実績を含めた具体案を出していかなければならない。また、患者の数がどう変化していくか、医師がどう地域に根付いているかを読む力を養わないといけないのではないかと感じた。(眞壁委員)

以上をもって全ての議事が終了したので、議長は閉会の宣言をした。
上記を確認するため、会議録を作成し、会議録署名人が署名する。

令和7年3月17日

県南東医療提供圏域調整会議会長

塚田 篤郎

会議録署名人

海老原 達男

会議録署名人

高畑 伸元

令和6年度第1回 県南東医療提供圏域調整会議 次第

日時：令和7年3月5日（水）

午後6時30分～

場所：WEB開催

1 開 会

2 あいさつ

3 会長等の選出

4 議 事

（1）医療提供圏域調整会議について

（2）県南東医療提供圏域の概況及び医療提供体制について

（3）県南東医療提供圏域の区域対応方針について

5 その他

6 閉会

<資料>

○次第

○委員名簿

○資料1 医療提供圏域調整会議について

○資料2 県南東医療提供圏域の概況と医療提供体制

○資料3 地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業オープンデータ等の分析結果

○資料4 県南東医療提供圏域区域対応方針（案）

○参考資料1 医療提供圏域調整会議設置要綱

令和6年度第1回県南東医療提供圏域調整会議 出席者名簿

(敬称略)

二次保健 医療圏名	区分	団体名等			備考
		団体名等	役職名	委員氏名	
鹿行	地域医療構想 調整会議議長	鹿島医師会	会長	坪 正紀	
	市町村	潮来市	市長	原 浩道	(代理) 市民福祉部長兼福祉事務所長 実川 智史
	保健所	潮来保健所	所長	緒方 剛	
	基幹病院	神栖済生会病院	院長	金沢 義一	
		白十字総合病院	院長	鈴木 善作	
		小山記念病院	理事長	小山 典宏	
		高須病院	院長	高須 伸克	
	学識経験者 (消防)	鹿行広域事務組合消防本部	消防長	飯島 敏彦	
		鹿島地方事務組合消防本部	消防長	武藤 隆	
土浦	地域医療構想 調整会議議長	土浦市医師会	会長	塚田 篤郎	
	市町村	土浦市	市長	安藤 真理子	(代理) 保健福祉部長 羽生 元幸
	保健所	土浦保健所	所長	入江 ふじこ	
	基幹病院	総合病院土浦協同病院	院長	広岡 一信	
		国立病院機構霞ヶ浦医療センター	院長	鈴木 祥司	
		石岡第一病院	院長	吉野 淨	
		山王台病院	院長	幕内 幹男	
	学識経験者 (消防)	土浦市消防本部	消防長	檜山 保明	
取手・竜ヶ崎	地域医療構想 調整会議議長	取手市医師会	会長	眞壁 文敏	
	市町村	龍ヶ崎市	市長	萩原 勇	(代理) 健康スポーツ部長 足立 典生
	保健所	竜ヶ崎保健所	所長	石田 久美子	
	基幹病院	JAとりで総合医療センター	院長	冨満 弘之	
		龍ヶ崎済生会病院	院長	海老原 次男	
		東京医科大学茨城医療センター	院長	柳田 国夫	
		牛久愛和総合病院	院長	瀬下 明良	
		つくばセントラル病院	院長	金子 剛	
		取手北相馬保健医療センター医師会病院	院長	鈴木 武樹	
		総合守谷第一病院	院長	遠藤 優枝	
	学識経験者 (消防)	稲敷広域消防本部	消防長	永井 貴史	(代理) 救急課長 高橋 竜夫